

平成 16 年 11 月 16 日  
国 際 研 究 課

## 「世界イネ研究会議」の開催について（結果概要）

「国際コメ年」行事の一環として、イネ研究について最新の成果を紹介し今後の方向を議論するため「世界イネ研究会議」東京シンポジウムを 11 月 4 日に、つくばシンポジウムを 11 月 5 日から 7 日に下記のとおり開催した。

東京シンポジウムの概要は別紙 1、つくばシンポジウムの概要は別紙 2 のとおり。

### 記

#### 1 主催等

主催：農林水産省

共催：国際稲研究所（IRRI）、アジア生産性機構（APO）、国際コメ年日本委員会、独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構、独立行政法人農業生物資源研究所、独立行政法人農業環境技術研究所、独立行政法人農業工学研究所、独立行政法人食品総合研究所、独立行政法人国際農林水産業研究センター

後援：国際連合食糧農業機関（FAO）、世界銀行、外務省、日本育種学会等農業関係学会 他

#### 2 東京シンポジウム

日 時：平成 16 年 11 月 4 日（木）（午前 11 時～午後 5 時）

場 所：赤坂プリンスホテル（東京都千代田区紀尾井町 1-2）

参加者：約 450 名（国際機関 10、参加国 36 の国と地域）

#### 3 つくばシンポジウム

日 時：平成 16 年 11 月 5 日（金）～ 7 日（日）

場 所：エポカルつくば国際会議場（茨城県つくば市竹園 2-20-3）

参加者：約 1,240 名      事前登録済み参加者    843 名（うち海外 218 名）

当日登録の参加者      392 名

#### 4 会議の評価・会議記録（プロシーディングス）の発行等

会議の成果は、『Rice is Life -21 世紀に向けた科学的展望』として来年出版予定であり、その中には東京シンポジウムの基調講演及びパネルディスカッション等、つくばシンポジウムの基調講演、セッション講演 145 篇、優秀なポスター発表 40 篇及びコンビーナーの総括等が含まれ、今後のイネ研究への貢献が期待される。

#### 5 その他

「いまどき！ごはん」（テレビ朝日系列 11 月 21 日 18 時～放映予定）

農林水産研究開発レポート「食料・環境問題の解決を目指した国際農業研究」

消費者の部屋「お米の世界」11 月 1～5 日（独）農業・生物系特定産業技術研究機構

## 「世界イネ研究会議」東京シンポジウム 次第

日時：平成16年11月4日（木）午前11時～午後5時  
場所：赤坂プリンスホテル 五色の間

### 【午前の部：午前11時から12時】

#### 1 開会宣言 農林水産技術会議会長

#### 2 農林水産大臣あいさつ

#### 3 皇太子殿下おことば

#### 4 基調講演

【作る】「コメ生産のための新技術」

グルデブ S. クッシュー カリフォルニア大学客員教授

< 休憩 70分 >

### 【午後の部：午後1時10分から午後5時】

#### 5 国際コメ年記念講演

ジャック ディウフ 国際連合食糧農業機関(FAO)事務局長

#### 6 基調講演

【生きる】「日本人の食におけるコメの意味」

香川 芳子 女子栄養大学学長

【暮らす】「定住の力」 「暮らし」としての米づくり -

松本 健一 麗澤大学教授

【共生する】「変化するコメの経済及び政策」

- 食料安全保障、国際化、環境からみた持続性との関係について -

ヨアヒム フォンブラウン 国際食料政策研究所(IFPRI)所長

< 休憩 10分 >

#### 7 食料問題解決のためのロゼッタストーン

- イネゲノム塩基配列完全解読 -

イネゲノム研究プロジェクト主査

岩淵 雅樹 (独)農業生物資源研究所理事長

#### 8 パネルディスカッション

・ パネリスト ロナルド P. カントレル 国際稲研究所(IRRI)所長

カナヨ F. ヌワンゼ アフリカ稲研究センター(WARDA)所長

グルデブ S. クッシュー、香川 芳子、

松本 健一、ヨアヒム フォンブラウン

・ コチエアー 東 久雄 国際コメ年日本委員会副会長

岩元睦夫 国際農林水産業研究センター(JIRCAS)理事長

#### 9 国際コメ年記念研究功績表彰

日本イネ研究者会議

#### 10 閉会宣言 農林水産技術会議事務局長

皇太子殿下のおことば

「世界イネ研究会議」東京シンポジウム

平成 16 年 11 月 4 日（木）（赤坂プリンスホテル）

「世界イネ研究会議」が，国内外の稲の研究者を始めとする多数の参加者を迎え，開催されることを大変うれしく思います。

米は，世界の半数以上の人々が主食とする優れた作物です。我が国においても，古くから米は日本列島に定着し，国民生活の安定の礎となってきました。美しい水田の景観は，日本の原風景となっています。また，田は水を貯（たくわ）えるダム役割を果たし，土を守るとともに多くの生き物をはぐくんできました。近年，米を中心とした健康的な日本型の食生活は，国内外から高く評価されていると聞いています。日本の社会や文化は，米作りを原点として発展してきたと言っても過言ではありません。

国際連合において，本年は「国際コメ年」とされ，飢餓や貧困の削減における米の重要な役割について認識を高める取組が世界各国で行われています。その中で，科学技術面から，米の生産と利用や水田の多面的機能の果たす役割などを議論し，稲研究が進むべき方向を検討するこの会議の意義は，極めて大きいと思います。

世界各国の英知が集まったこの会議が，多様な視点からの活発な議論を通じて，世界の食料問題の解決と地球環境の保全に大きく貢献することを期待し，私のあいさつといたします。

「世界イネ研究会議」東京シンポジウム  
大臣挨拶

本日ここに皇太子殿下のご臨席を仰ぎ、「世界イネ研究会議」を開催するに当たり主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

2004年は国連が定めた「国際コメ年」です。世界の国々では、今年、途上国の飢餓・貧困の解消に重要な役割を果たすコメについて、その認識を高めるため様々な取り組みが行われております。

我が国においても、国際コメ年日本委員会を立ち上げ、本年1月の記念シンポジウムを皮切りに、全国各地で多くのイベントを行ってまいりました。

このような中で、世界中のイネの研究者をはじめ数多くの参加者をお迎えして、かくも意義深い研究会議を開催できることは、主催者としてこの上ない喜びであります。

本会議の開催に当たり、多大なるご協力をいただきましたFAO、国際稲研究所、アジア生産性機構、国際コメ年日本委員会など関係機関の皆様方に、深く御礼申し上げる次第であります。

さて、我が国の稲作は、2千年を超える歴史を持ち、水田農業の基幹的な作物として位置づけられるとともに、国土・環境の保全、様々な地域文化を育むという大きな役割を果たしております。

我が国は長年にわたり、このようなイネについての研究に取り組んでまいりました。国際的な視点での研究も進めており、近年では、世界の十の国や地域と協力してイネゲノムの解読を行ったほか、アフリカにおける「ネリカ米」の研究開発などにも取り組んでいるところであります。

今なお8億と言われる世界の栄養不足人口を、2015年までに半減するという「国連ミレニアム目標」達成の観点からも、イネの研究開発の果たす役割は極めて重要なものであります。

本日の会議は、「作る」、「生きる」、「暮らす」、「共生する」を4つのメインテーマとし、イネに関する研究の最新の成果を紹介していただくこととしております。今後の研究方向を議論するにはまたとない機会であり、国際的なイネの研究開発の発展に大いに役立つものと確信しております。

結びに、国際コメ年が、世界の国々の農業・農村の共生・繁栄のために実り多きものとなるよう祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。

平成16年11月4日  
農林水産大臣 島村宜伸

## 東京シンポジウムの概要



シンポジウム会場



農林水産技術会議会長



島村農林水産大臣



皇太子殿下



グルデブ S・クッシュ博士



ジャック・ディウフFAO事務局長



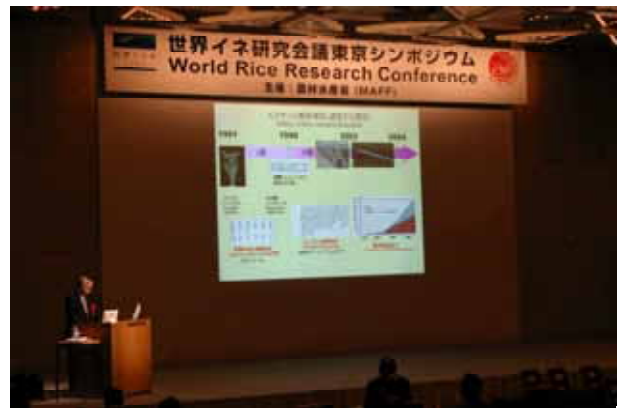
香川芳子博士



松本健一教授



ヨアヒム フォンブラウン博士



ゲノム塩基配列完全解読



パネルディスカッション



国際コメ年記念研究功績表彰



西川農林水産技術会議事務局長

## テレビ朝日系列「いまどき！ごはん」の放送について

### 1 基本的な考え方

「世界イネ研究会議」東京シンポジウムを「いまどき！ごはん」のインフォーマーシャル（吉田恵のごはん健康）で取り上げ、国際コメ年とその取り組みを紹介するとともに、日本人の食におけるコメの重要性をPR。

### 2 放映予定日

11月21日（日） 18：00～18：30

### 3 構成

（1）吉田恵から、世界イネ研究会議が開かれ、コメの重要性がアピールされたことを紹介。

（2）「世界イネ研究会議」東京シンポジウムの開会宣言、島村農林水産大臣の主催者挨拶、皇太子殿下のおことば、基調講演等の様子を放映

（3）香川芳子女子栄養大学学長より、ごはん食の良さ等についてコメント

## つくばシンポジウムの概要

全体会合 (11月5日 9:30 ~ 12:30)

開会挨拶	農林水産技術会議事務局	研究総務官	石毛光雄
	世界食糧機関 (FAO)	国際コメ委員会事務局長	グー・バン・グエン
	国際稲研究所 (IRRI)	理事長	大塚啓二郎

基調講演 世界を養う：我々は今後どれだけのコメを必要としているか？

	マニトバ大学教授	バーツラフ・スミル
コメと水と暮らしがつくる持続的農業の発展	日本大学教授	中村良太
21世紀のイネ研究戦略	国際稲研究所長	ロナルド P. カントレル

表彰式 国際稲研究所によるシナデラ賞の表彰

分科会セッション (11月5日 14:00 ~ 7日 12:30)

講演演題総数・145(うち海外 82)**テーマ1：作る（コメ生産のための新技術）**

- S1 イネ属、その多様性と進化、そして利用
- S2 イネゲノムの構造と機能
- S3 遺伝子組み換えイネの将来
- S4 収量性の向上
- S5 栽培イネの遺伝資源の拡大とヘテロシスの利用
- S6 アジアにおける直播栽培の動向
- S7 機械化による生産性向上

**テーマ2：生きる（健康な生活のためのコメとその利用に関する新たな知見）**

- S8 コメ品質の改善
- S9 新たなコメの用途の開発
- S10 コメの加工及び流通のためのポストハーベスト技術

**テーマ3：暮らす（多面的機能の発揮と循環型社会の構築）**

- S11 水田の多面的機能の向上
- S12 イネ栽培における土壌、水及び環境保全
- S13 新技術導入における農民参加のアプローチ
- S14 水田における栽培作物の多様化と農村生活

**テーマ4：共生する（世界の食料・環境問題の解決への貢献）**

- S15 不良環境下におけるコメ生産拡大への取り組み
- S16 環境に負担の少ない病虫害管理
- S17 コメの需要と供給
- S18 グローバリゼーションの稲作農民への影響
- S19 気候変動とコメ生産
- S20 IT活用によるイネの生産性向上

ワークショップ (11月5日 14:00 ~ 7日 12:30)

講演演題総数・42(うち海外 24)

- W1 玄米の有効成分とその機能：発芽玄米を中心に
- W2 世界のイネ育種戦略
- W3 イネの高温・低温ストレス
- W4 FAO/IAEA/RCA によるアジアにおけるイネ改良のための放射線利用技術に関する戦略的ワークショップ
- W5 緑の革命後の農業における持続性：インドガンジス平原におけるイネー小麦作付体系
- W6 イネ集約栽培法 (SRI) に関する経験の概観



ポスターセッション（全期間中開催） 研究発表ポスターの総掲示数：302(うち海外 84)  
 展示(全期間中開催) 33 ブース(国際機関等 3、民間 12、県 1、社団法人等 4、独法 13)  
 レセプション(会費制) 11月6日 18:30～20:30 309名参加  
 スタディツアー（11月7日 13:00～19:00）農林研究団地等4コース（計 84名参加）  
 海外への録画中継（School of Internet (SOI)系大学の協力で、フィリピン、インドネシア  
 タイで視聴者を募り、基調講演（東京、つくば）を11月6日に放映）

(参考)

参加者の国別内訳（暫定数）

\*事前登録による参加者 843名の国別内訳（36の国と地域：アルファベット順）

なお、下記の数字には当日登録参加者（392名）は含まれていない。

Australia	3	Italy	3	Singapore	2
Austria	1	Japan	625	Spain	1
Bangladesh	11	Korea	13	Sri Lanka	6
Belgium	2	Lao PDR	2	Sweden	2
Cambodia	1	Malaysia	15	Taiwan	3
China	14	Mali	3	Tanzania	1
Colombia	1	Mexico	1	Thailand	13
Hungary	1	Myanmar	1	The Netherlands	1
India	35	Nepal	1	UK	4
Indonesia	4	Pakistan	3	USA	16
Iran	2	Paraguay	1	Vietnam	3
Israel	1	Philippines	46	Zimbabwe	1